

吃音の悩み知って

古里小 言語聴覚士招き授業



内藤さん(右)を交えてグループワークで意見を交わす児童

古里小学校の3年生
約100人が13日、言
葉がつかえたり、出に
くくなったりする「吃
音(きつおん)」につ
いて授業で学んだ。昨
年に続き、県内外の出
前授業で吃音への理解
を広めている言語聴覚

士に講師を依頼。児童
は講話を聞いたり、グ
ループで話し合ったり
して、吃音がある人と
の関わり方を考えた。
松本市内のクリニッ
クに勤務する言語聴覚

士の内藤麻子さん(51)
は、長野市内で吃音の
ある人の数について
「統計上ではおよそ古里
小6校分に当たる38
00人。知らないだけ
でたくさんいることを

同小は、吃音のある
児童の要望もあって昨
年11月に別の学年で授

知って」と話した。
「自分が嫌い」「生き
返りたい」と吃音に悩
む子供の声も映像で紹
介し、「言葉に詰まら
ないようにすると余計
に話しづらくなる。本
人にとっては自然な話
し方なので、きちんと
話を聞いてあげてほし
い」と伝えた。
講話後は5人ほどの
グループに分かれて吃
音がある人との接し方
を話し合い、「困って
いる人がいることが分
かった」「話している
時はちゃんと聞いてあ
げる」などと意見を
出していた。

業を実施。今回は、3年
生にも吃音のある児童
がいることから、理解
を促そうと計画した。